

ICAP 2008 PUSANへの 参加と清溪川視察

研究第1部

副部長

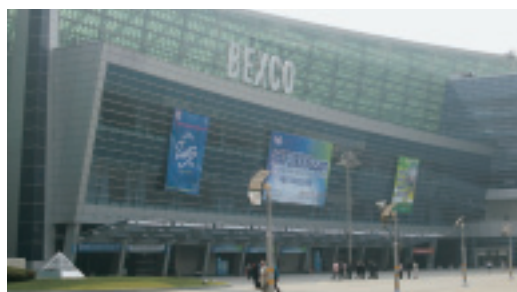
寺川 孝



合流改善技術とLOTUSを発表

ICAP（国際水都会議）は、世界の水都と呼ばれる都市が集まり、21世紀を先導する魅力ある都市の創造に向けて、市民、専門家、行政の多彩な交流が展開されることを目的として開催されている国際会議で、1990年から開催されています。第5回となる今回の会議は、“For a Sustainable Aquapolises（持続可能な水都に向けて）”をテーマとして、大韓民国釜山広域市で開催されました。

会議は、各都市の首長、専門家による全体会議と専門家会議から構成されており、全体会議では24都市からそれぞれの課題や取り組みについて報告、議論が行われました。また、専門家会議は、四つのセッションに分かれて35件の発表と質疑応答が行われました。



専門家会議の開催されたBEXCO



大福地研究員による発表風景



清溪川の復元事業

下水道機構からは、セッションⅣ（災害対策と水資源管理）において2名が参加し、それぞれ「合流改善対策技術開発—SPIRIT21—」、「LOTUS project」の発表を行いました。

清溪川は、1960年代から1970年代に蓋がかけられ道路として整備されるとともに、その上部に高架道路が整備され、1日約17万台の車両が通行するソウル市内の大動脈として利用されてきました。

清溪川復元事業は、ソウル市を人間中心の環境都市への変貌、歴史性の回復と文化スペースの創出、老朽化した都市施設の安全性の確保、周辺地区の開発の活性化といった目的を持ち、清溪川にかかる高架道路及び蓋を撤去して、清溪川を復元するものです。

総工事費約3,900億ウォン（約390億円）、工事期間2年2ヶ月という短期間に集中的に事業が行われました。



復元された清溪川

今回の海外出張においては、水を軸とする各国の都市における様々な取り組みについて、多くの知見を得ることができ、また、隣国の韓国における下水道の現況や課題などを間近に見ることができました。